

二本松市文化財調査報告書第16集

平成12年度市内遺跡試掘調査報告書

田地ヶ岡遺跡 田地ヶ岡館跡

館野遺跡

郡山台遺跡

二本松城址

平成13年3月

二本松市教育委員会

例 言

1. 本書は、平成12年度国庫補助事業として二本松市教育委員会が実施した市内所在遺跡における試掘調査の結果をまとめたものである。
2. 出土遺物の整理は洗浄・注記を国分健太郎（二本松市教育委員会文化課臨時職員）が実施し、分類・復元については門馬久子、桑原尚子（二本松市教育委員会文化課臨時職員）の協力を得た。
3. 土器採拓は桑原が、遺物の実測は門馬が担当した。また遺構遺物のトレース、挿図・版組は中村が担当し、その修正は桑原の協力を得た。
4. 本報告書の執筆は中村が担当した。

凡 例

1. 測量における基準は任意として仮標高を設定し、遺構実測図の方位はすべて磁北を使用した。
2. 遺構実測図のうち断面図に示した数字は仮基準を用いた仮標高であり、平面図のアルファベットは対応する断面図の位置を表している。
3. 遺物はすべて1/2で収録した。遺構については図ごとに縮尺を示した。
4. 遺物実測図については、断面がベタ黒のものは須恵器、その他のものは白抜きとし、土器内面にアミ点を施したものは内面黒色処理を表す。
5. 遺物実測図における遺物の寸法における単位は、cmおよびgで、（ ）のあるものは残存長を示す。
6. 本文中で使用した略号は次のとおりである。S I…竪穴住居跡 SK…土壙 SD…溝跡 P…ピット

目 次

例言・凡例

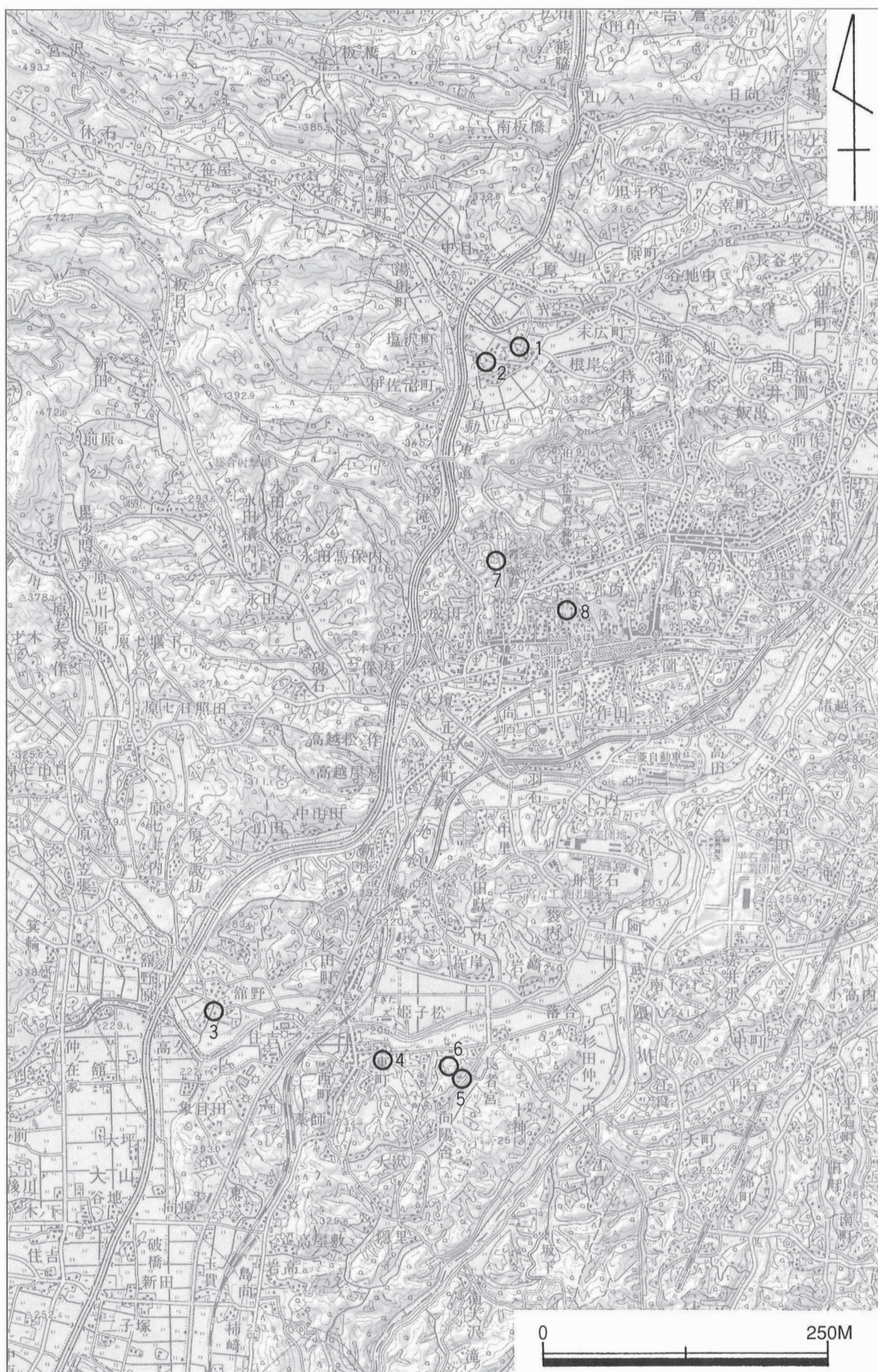
第1節 田地ヶ岡遺跡・田地ヶ岡館跡 1	第3節 郡山台遺跡…………… 4	第4節 二本松城址……………11
1. 個人住宅①…………… 1	1. 個人住宅①…………… 4	1. 四阿改築①……………11
2. 個人住宅②…………… 2	2. 宅地造成②…………… 6	2. 宅地造成②……………12
第2節 館野遺跡…………… 3	3. 道路舗装③…………… 9	

挿 図 目 次

第1図 市内遺跡試掘調査地位置図……………	第8図 郡山台遺跡①出土遺物実測図…………… 7
第2図 田地ヶ岡遺跡調査地および周辺図…………… 2	第9図 郡山台遺跡②トレンチ配置図および要保存範囲図 7
第3図 田地ヶ岡遺跡①1T平面図および断面図…………… 2	第10図 郡山台遺跡②出土遺物実測図…………… 9
第4図 館野遺跡調査地および周辺図…………… 4	第11図 郡山台遺跡③1T平面図および断面図……………10
第5図 館野遺跡出土遺物…………… 4	第12図 郡山台遺跡③出土遺物実測図……………11
第6図 郡山台遺跡調査地および周辺図…………… 5	第13図 二本松城址①調査地および周辺図……………12
第7図 郡山台遺跡①2T平面図およびSK01断面図…………… 6	第14図 二本松城址②調査地および周辺図……………13

図 版 目 次

図版1 田地ヶ岡遺跡①1T精査状況…………… 3	図版11 郡山台遺跡②2TA竪穴住居跡検出状況…………… 8
図版2 田地ヶ岡遺跡①出土遺物…………… 3	図版12 郡山台遺跡②5TSD01半裁状況…………… 8
図版3 田地ヶ岡遺跡②精査状況…………… 3	図版13 郡山台遺跡②7TSD01検出状況…………… 9
図版4 館野遺跡出土遺物…………… 4	図版14 郡山台遺跡②7T出土遺物…………… 9
図版5 郡山台遺跡①1T精査状況…………… 5	図版15 郡山台遺跡③1T精査状況……………10
図版6 郡山台遺跡①1T出土遺物…………… 5	図版16 郡山台遺跡③4T精査状況……………11
図版7 郡山台遺跡①2TSK01半裁状況…………… 6	図版17 郡山台遺跡③5T精査状況……………11
図版8 郡山台遺跡①出土遺物 1…………… 6	図版18 郡山台遺跡③出土遺物……………11
図版9 郡山台遺跡①出土遺物 2…………… 6	図版19 二本松城址①2T精査状況……………12
図版10 郡山台遺跡②出土遺物…………… 8	図版20 二本松城址②3T精査状況……………13



れる可能性と、当該調査区にもう1つのブロックが存在する可能性とが示唆された。したがって、この掘立柱建物跡の規模・性格、および周辺の状況を把握し、保存を図るべきであると判断された。

調査後の対応 1 T付近については要保存地域であることを開発側に説明したが、協議の結果、公衆用道路であるため開発が避けられないとのことから、次年度に本調査を実施することとした。

第4節 二本松城址

遺跡の環境 市街地の北西約1 kmに位置する標高約345 mの独立丘陵を中心に営まれた平山城である。本丸が置かれた独立峰を中心に南・北・西が丘陵で囲まれ、東方がやや開口したいわゆる“馬蹄形城郭”といわれる堅固な城郭である。当城址の創建年代は明確ではないが、嘉吉元年(1441)以降、畠山満泰によって築造されたものと伝えられる。その後、寛永20年(1643)には丹羽光重公の入府により二本松藩が成立、以後約220年間丹羽氏による支配を受け幕末を迎える。

1. 四阿改築①

所在地 二本松市郭内三丁目376

開発面積(調査面積) 41.44(16) m²

調査期間 平成12年8月10日

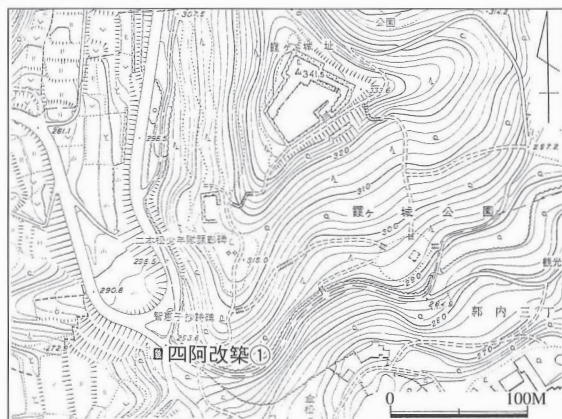
調査原因 四阿改築工事

調査担当 中村真由美(市教育委員会文化課)

調査概要

二本松城址本丸のある独立丘陵から南西に延びる尾根の先端に位置する。この独立丘陵の裾を北西から南東に走る道路が接しており、この道路から南西側に張り出した狭小な平場が今回の調査区である。平場の西側は急峻な崖地であり、現況からは盛土による平場か、削りだしによるものかの判別が困難であったため、この確認に重点を置いて調査を実施した。現況は四阿が建設されており、基礎部分の攪乱が予想された。

基本層序は3層でⅠ：工事による整地層、Ⅱ：黄茶褐色土層(盛土)の順に堆積し、Ⅲ：花崗岩が風化した層(地山)に達する。



第13図 二本松城址四阿改築① 調査地および周辺図

1 T 調査区北東端を基準に設定した東西に長い2×4 mのトレンチである。東端では約14 cmで地山に達するが、南西に向かうにつれ深くなり、東から約2.5 mの地点で傾斜を変え急激に落ち込み、トレンチ西端では約1.05 mを測る。Ⅱ層により現況のような平坦面が形成されているが、Ⅱ層上面からは既存の四阿の基礎が切りあって検出されており、四阿が過去に何度か立て替えられていることがわかる。遺構は検出されず、遺物はⅡ層より基石状石が1点出土している。

2 T 1 Tから南西に約3 mに設定した2×4 mの東西に長いトレンチである。1 T同様トレンチ東端では約15 cmで地山に達するが、西へ向かうにつれ深くなり、トレンチ中央付近で傾斜を変え急激に落ち込む様子が観察でき、このためトレンチ西端では約1.1 m掘削したが地山は確認できなかった。やはりⅡ層により平坦面を確保しており、Ⅱ層上面から既存の四阿の基礎が1基検出され、これに切られる形で長辺約60 cmの長方形のピットが検出されている。炭化物を多く含むが非常に浅く、出土遺物もないことから時期、性格ともに不明である。Ⅱ層より素焼きの土器片2点が出土したが非常に小片で詳細は不明である。



図版19 二本松城址四阿改築① 2 T精査状況(東より)

調査結果

当該区域は北東に接する道路で若干の削平を受けているが、本来の地形である尾根先端部の落ち際は残されており、かなりの急勾配であったことがわかる。さらに、それを南西側に盛土をして平坦面を確保している状況が判明した。この平坦面を利用したのは四阿としての建造物のみである。盛土の時期は明確ではないが、遺物も少ないことから当該地区を城址が機能していた時期に利用していた可能性は低いと思われる。

調査後の対応

本調査は必要ないものと判断し、計画どおりに施工。

2. 宅地造成

所在地 二本松市本町一丁目1、17、18

開発面積(調査面積) 2334.95 (23) m²

調査期間 平成13年3月1日

調査原因 分譲宅地造成

調査担当 中村真由美(市教育委員会文化課)



第14図 二本松城址宅地造成② 調査地および周辺図

調査概要

二本松城の南、防御ラインの一つである観音丘陵に位置し、坂下門から城内へ向かう通路沿い西側である。絵図面では「鐘突堂」と記載がある付近にあたる。現況は平坦であるが東側と南側は急傾斜となっており、西側は小高く自然地形を残している。本来は西から東へ緩やかに傾斜する地形であったものを削平し、平坦地をつくりだしたことが明らかである。これは、以前にこの地区に一般企業の社宅が造られており、その際に造成されたものと考えられる。今回の開発にあたっては、既存の宅地を撤去し再度分譲するものであるため、地形の改変はほとんど行なわれず、中央の侵入路に沿って下水道が敷設されるだけである。したがって、この部分を中心に調査区を設定した。

基本層序は5層で、Ⅰ層は今回の整地による盛土、Ⅱ層は礫の多い攪乱層、Ⅲ層は砂質土の多い攪乱層、Ⅳ層は旧表土とみられるがⅢ層により大部分が削られている。Ⅴ層は地山(花崗岩風化層)であるが、水道管及びガス管、住宅基礎等によりかなり攪乱されている。

トレンチは4本設定したが、いずれも同様の状況であり、遺構・遺物ともに検出されていない。地山までの深さは1 T北側で約60cm、南側では約20cmであるが、1 Tより南側に設定した2～4 Tでは地山までそれぞれ約65cm、約70cm、約80cmを測り、南東へ向けて傾斜していることがわかる。

調査結果

開発区域中央部においては過去の開発により攪乱を受けていることが明らかであるが、西から東へ傾斜する本来の地形は残されており大規模には削平されていないことが判明した。また、遺物が全く出土しないこ

とから遺構の存在する可能性は低いと判断された。

なお、Ⅳ：旧表土層は既建造物の基礎によりかなり攪乱を受けており、今後宅地の基礎等、工事によって掘削される部分はこの攪乱の範囲内である。



図版20 二本松城址宅地造成② 3 T精査状況(南西より)

調査後の対応

本調査は必要ないものと判断し、計画どおりに施工した。なお分譲後、宅地を建築する際は立会工事とするように指導した。

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせい12ねんどしないいせきしくつちようさほうこくしょ							
書名	平成12年度市内遺跡試掘調査報告書							
副書名	田地ヶ岡遺跡 田地ヶ岡館跡 館野遺跡 郡山台遺跡 二本松城址							
巻次								
シリーズ名	二本松市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第16集							
編著者名	中村真由美							
編集機関	福島県二本松市教育委員会							
所在地	〒964-8601 福島県二本松市金色403番地の1							
発行年月日	西暦2001年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
でんちがおか 田地ヶ岡	しおざわまち 二本松市塩沢町	07210	00012 00013	37° 36' 42"	140° 25' 1"	20000515～ 20000516	88	個人住宅
	しおざわまち 二本松市塩沢町	07210	00012 00013	37° 36' 40"	140° 25' 3"	20010210	16.8	個人住宅
たての 館野	たての 二本松市館野	07210	00111	37° 33' 33"	140° 24' 09"	20000517	36	個人住宅
こおりやまだい 郡山台	こおりやまだい 二本松市郡山台	07210	00064	37° 33' 21"	140° 25' 19"	20000518～ 20000526	161	個人住宅
				37° 33' 16"	140° 25' 35"	20000529～ 20000608	600	宅地造成
				37° 33' 21"	140° 25' 29"	20000711～ 20000718	129.7	道路舗装
にほんまつ じょうし 二本松城址	かくな 二本松市郭内	07210	00021	37° 35' 44"	140° 25' 48"	20000810	16	四阿改築
	もとまち 二本松市本町	07210	00021	37° 35' 30"	140° 26' 10"	20010301	23	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
郡山台	郡衙跡	平安・縄文	竪穴住居跡 溝跡 掘立柱建物跡 土壇	石鏃 土師器 須恵器 釘 古銭 縄文土器		大溝が検出され、郡衙南端 の区画の可能性有。		
田地ヶ岡	散布地 城館	縄文・中世	ピット 土坑	土師器 縄文土器		縄文時代の遺跡範囲が確認 された		

二本松市文化財調査報告書 第16冊

平成12年度発掘調査報告書

平成13年3月30日発行

編集・発行 福島県二本松市教育委員会
福島県二本松市金色403番地の1 TEL0243-23-1111 〒964-8601

印刷 株式会社 日進堂印刷所
福島県福島市庄野字柿場1番地の1 TEL024-594-2211 〒960-2194

©2001